



幾 欠 しく。

これをもつて華燭の典とする

ikuhisasaki

Presented by KIKYAKUDOU
FOR ADULTS ONLY



幾 久しく。

「これをきいて華燭の典とする」
ikuhisasaki

Presented by KIKYAKUDOU
FOR ADULTS ONLY



幾

久しく。

これをきいて華燭の典とする

ikuhisasaki

Presented by KIKYAKUDOU
FOR ADULTS ONLY

18歳未満の閲覧および購入は固く禁止します。
また、本人の許可なく複製、転載も固く禁止いたします。

十二月二十四日
新東帝都。

冷たい雨が降りしきる
雨の中吾はそこにいた…。

セキレイ計画…。

何羽もいるセキレイから
ただ一羽を選び出す
過酷な戦い…。

最初からわかっていたはずなのに…
そう、いくら吾が正妻を名乗ろうとも…

佐橋皆人は…吾の葦牙（あしかび）は…
No.88を…結を…選ぶと…





最愛の葦牙に捨てられ
出雲荘にも戻れない。

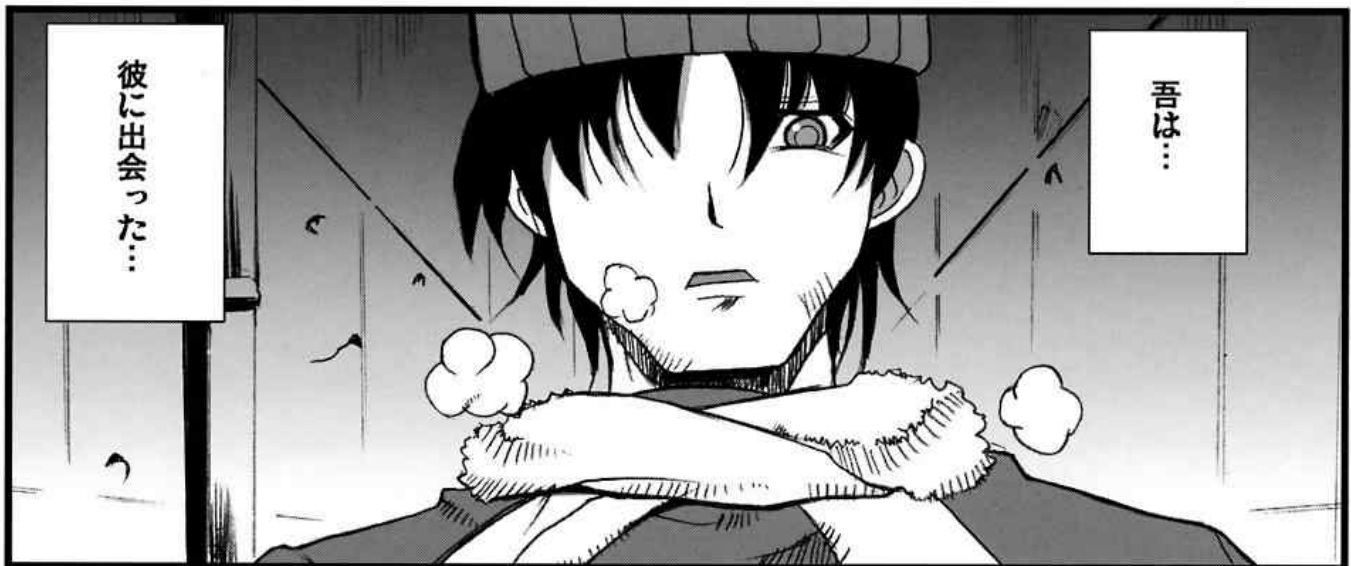
冷たい雨が吾の肌
突き刺さる。



そんな中……

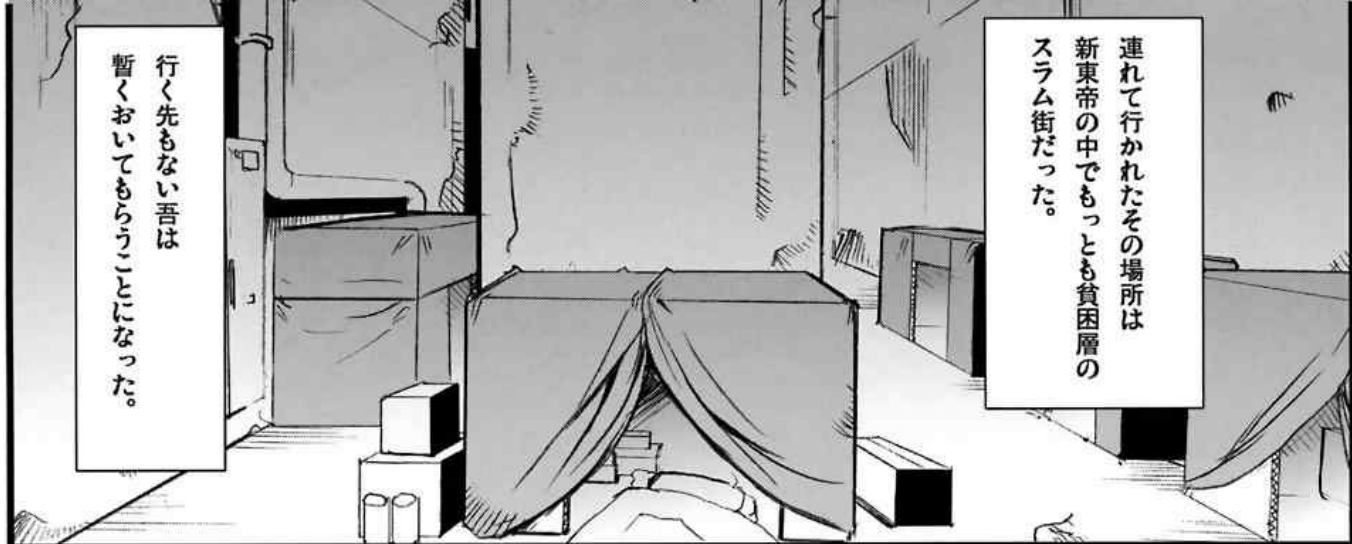


まるで吾の心を反映しているかの
ようだ……



彼に出会った……

吾は……



連れて行かれたその場所は
新東帝の中でもっとも貧困層の
スラム街だった。

行く先もない吾は
暫くおいてもらったことになった。



更に数日がたち、
吾は再羽化を
することとなった。

別にセキレイ計画に
未練があったわけではない。

これから起きることも知らずに…

まだ吾を必要としてくれる人がいることが
無償にうれしかった…。ただ、それだけだった。



そして数日が立ち、
この生活にも慣れてきた頃、

この住人ともだいぶ
仲良くなり、なりゆき上
ここに来た経緯を話す
までになった。



身の上を聞いて
同情してくれたのだろう。

こんな吾に対して
住人たちは更にやさしく
接してくれるようになった。

彼のセキレイに
なってる目。

胸を見せろと言われた。
葦牙の命令に忠実かどうかを
試すためらしい。

別に見せる事自体は
どうということば
ないのだが、

大衆の面前で
胸をさらけ出す
というのは…

少し恥ずかしいかもしれない…。



彼の葦牙になって6日目。

フェラチオというものを
強要される。

この吾が何年も洗っていないような
そんな下衆な物を口に入れるなど
到底容認できなかったのだが…

ビーン



葦牙の命には逆らえない…
仕方なく口に含む…

悪臭が鼻腔に突き刺さる。
気持ち悪い…

ビーン
ハハハ



強烈な臭いのする
亀頭を大量の唾液で
臭いを薄め丹念に
綺麗にしていく…

胸の間のものは
吾の体温より熱く、固く勃起して
擦り付けてくる…

亀頭の掃除が終わると
竿全体の掃除を強要される。

ちゅわ
ちゅわ
ちゅわ
ちゅわ

喉の奥を何度も突かれ
気が遠くなる感覚を
覚えた…

グキョル

口の中いっぱい射精され
嫌がおうにもザーメンの味を
味合わされる…

とても不味い…。吐き気がする…。

やがて口の中で
ドロツとした液体が
噴出した。

これが…ザーメン…?

ビュッ
ビュッ
ビュッ

彼が葦牙になって
8日目。

つ…ついに葦牙との
ちっ契りの儀式を…

きっ亀頭が吾の膣壁を
押し分け…

ゆっくりと…
はっ入って…

んほおおおおおっ

これが契りの儀式…っ
葦牙の鉄のごとく固く熱き肉棒は
容赦なく吾の膣に突き立てられ

獣のような激しいまぐわいに、
吾は思わず嗚咽を洩らす

んおおおおおっ

激しく肉棒を突かれる中、次第に彼の亀頭が膨らんで来るのを陸越しに感じる。

射精される……口の中に出されたあの濃厚で大量のザーメンを吾の膣内に注入される……

射精するとき葦牙は一滴のザーメンもこぼさぬよう吾の両足をがっちり手で掴み目いっぱい吾の子宮に注ぎ込んだ。

吾は押し寄せる強烈な快楽で葦牙が射精するたびに何度も絶頂を迎えていた。

そしてこの時、吾は確実に受精、妊娠した。



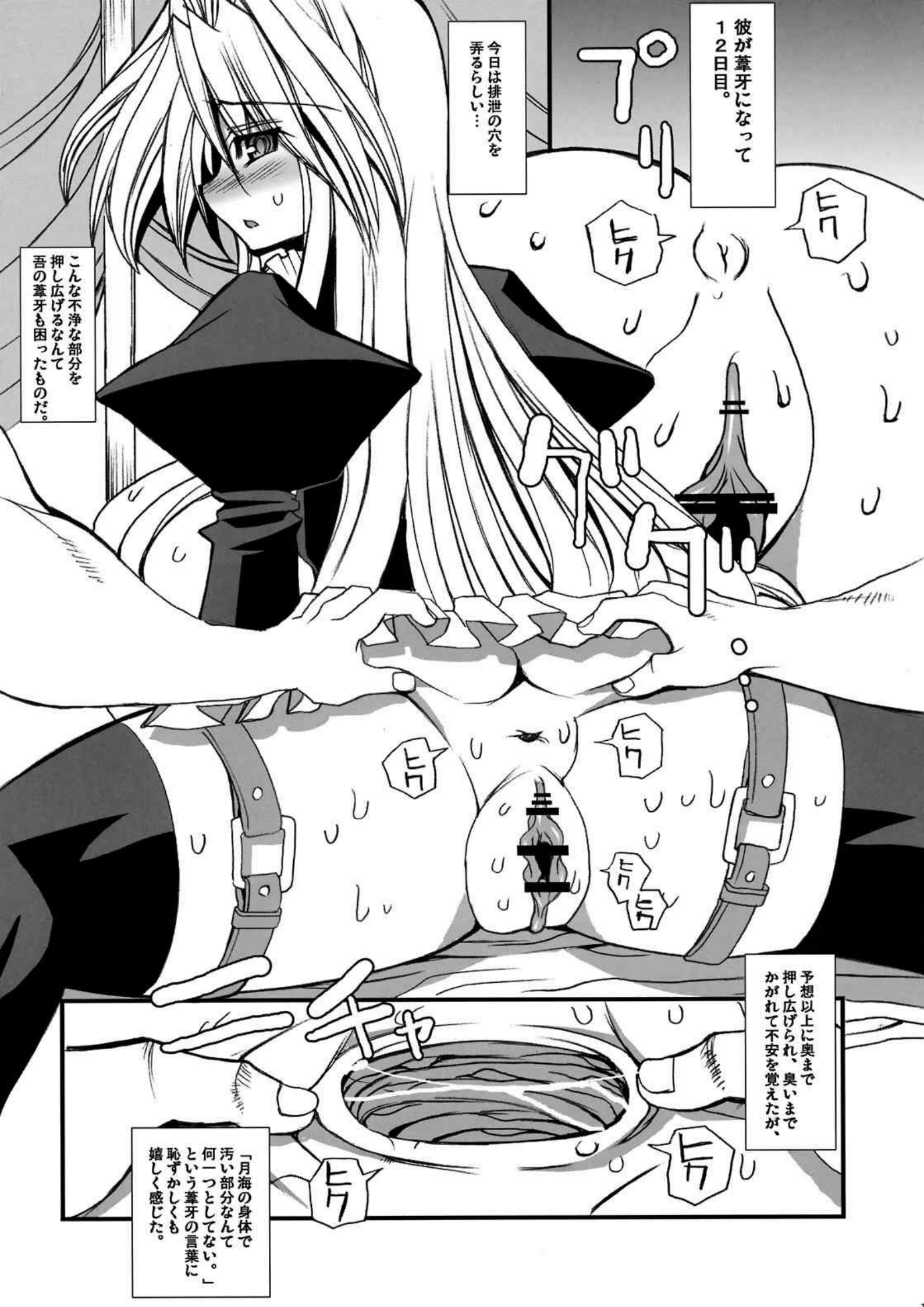
彼が葦牙になって
12日目。

今日は排泄の穴を
弄るらしい…

こんな不浄な部分を
押し広げるなんて
吾の葦牙も困ったものだ。

予想以上に奥まで
押し広げられ、臭いまで
かかれて不安を覚えたが、

「月海の身体で
汚い部分なんて
何一つとしてない。
という葦牙の言葉に
恥ずかしくも
嬉しく感じた。」



その後、押し広げられた
吾の肛門に葦牙は
肉棒を突き挿れた。

吾の不浄な肛門に
葦牙の熱き肉棒は
無理矢理押し分け
入ってくる。

吾は肛門に肉棒を
突き立てられながら

吾の思わず洩らした
喘ぎ声に隣の住人が
気づき入ってきた。

あまり好きでない
フェラチオを彼に
強要された。



そして二本挿しへ…

彼らは吾の手首ほどもある肉棒を
交互に突き立てた。

吾は、肛門から肉棒を引き抜くときの
排泄感と膣を亀頭で抉られて行く
感覚に頭の中がぐちゃぐちゃになり、
穴という穴から汁が溢れ出す。



二本同時射精…っ！
二人が大量のザーメンを
肉穴に放出する。

吾はザーメンが勢いよく
流し込まれる
快楽に不覚にも小便を
漏らしてしまった…。

だが、それと同時に
吾の肉穴で絶頂を
迎えてくれた事に
セキレイとしての…

…女としての
悦びを感じた…



彼の葦牙になって24日目。

今日は「お披露目会」をやるらしい。

葦牙の家の前に何十人というスラムの人々が集まってきた。

吾の恥部に視線が集中する。

その刹那吾はこう言った。

「どうか…吾の身体を自由にお使い下さい…」と。

葦牙に言われるまま吾は大衆の前で下半身をさらけ出す。



スラム街の人々は
吾の身体に次々と群がる。

息が荒い…

吾の身体で固くなった
その肉棒は相変わらず
すこい悪臭を放ち
吾の鼻腔をくすぐる。



さっそく吾の胸と舌を使い
恥垢をこそきおとす。

最初はあれだけ嫌だったこの行為だが
今ではおいしく感じるまでになった

吾が亀頭を刺激するたび
快楽の嗚咽を漏らす。



鉛を舐めるように
舌を亀頭の上で転がすと
真っ赤にふくらみ、

また、裏筋を刺激すると
それに反応しびくびくと
痙攣するのがいと嬉しい。



すべての恥垢を
除去すると
舌は唇をすぼめ、

竿全体を
吸い上げる。



するといとも簡単に
真っ赤になった亀頭から
勢いよくザーメンが発射される。

この黄色くドロドロ満った臭いザーメンは
とても美味しく、元気の良い
オタマジャクシが、舌の口内を泳ぎ回り
舌と歯茎に絡みつくのがわかる。
舌はそんなザーメンを舌にからめて飲み干す。



その後、次々と吾の
身体に競うかのように
ザーメンをぶっ掛ける
スラムの人々。

溜めに溜めた濃い
ザーメンをすべて吐き出すかのよう
黄色がかったドロドロの濃厚ザーメン
が幾度となく射精される。



何リットル分のザーメンを
搾り取ったのだろうか

50人から先は覚えていない。
ただ、ひたすらにザーメンを搾り取った。

射精最後の男は吾の葦牙だった。

葦牙は何人ものザーメンに犯され
ドロドロになった吾の姿を見て
「綺麗だよ」と言ってくれた。





葦牙との契りの儀式を終えると
周りで見ていた人々が我も我もと
近づいて来た。

どれも葦牙に引けをとらない
逞しさをもっている。



吾は…葦牙がそばで
見ている中、何十人という
男達に犯されていく…

吾のオマ○コは葦牙以外の
男達に犯され、

吾の口は葦牙以外の男の
肉棒をしゃぶり、

吾の子宮は葦人以外のザーメンを
受け入れる…

そんな背徳感も吾の
快楽を後押しする。

その後、何時間も犯された
吾の身体は大量のザーメンで染まった。

吾の陰からは大量のザーメンが噴出し、
吾のお腹は大量のザーメンで膨れ上がり、

やがて、吾の身体から
ザーメンの臭いしか
しなくなつた時、
吾は気づいた…

吾は、吾を犯す
葦牙以外の人々にも…
愛されているという「こと」を…



「葦牙のおちんちんが欲しい…」

吾はそう言うと、大衆が見てる中
大腿をおおきく広げ葦牙の上に
またがった。

これから何十回と犯される
オマ○コだからこそ最初に…
一番愛する人に吾のオマ○コを
味わってもらいたかったのだ。

吾は一挙に腰を落とす。

いつもより大きい…

葦牙の肉棒は吾の主導の元、
徐々に呑み込まれていく。

声にならない快楽が吾を襲った。

吾の葦牙は「これは俺のセキレイだ」と言わんばかりの激しい腰つきで吾のオマ○コを犯す。

すると葦牙の龟头は吾の膣で大きく膨らみ、勢いよく濃厚なザーメンを射精した。

吾もそれに答えようと大きく腰を振り、葦牙の貴重なザーメンを一滴も溢さぬよう子宮口を広げ、膣内をきつく締め、射精を促した。

2度目の受精だった。



彼の葦牙になって
214日目。

見知った顔が訪れに来たのだが
もうよく覚えていない。

吾の姿を見たとき何故だか
血の気の引くような顔だったのは
覚えている。

一緒に帰ろうと言われた
気もするが断った気もする。

なぜなら、ここは吾を真に
必要としてくれる人々がいて
帰る場所もここだからだ。

吾も真に愛してくれる人々がいる
限り、この場所から離れることは
一生無いと思う。
幾、久しく…。





[TUKIUMI : 01■]-----

ここからは恒例のイラストコーナー。

ツン垂れ月海。
ツンツンしながらもおっぱいは
垂れているという意味。
おっぱいを揉むとすぐデレます。

自分的には完璧です。
でもそんな月海は嫌だ。



[TUKIUMI : 02 ■]

垂れバース月海。

この時期はなんかバースのついた立体的な絵を書いてみようかと心がけてみました。めんどくさいので毎回、漫画ではバースとかついたりしません。

これはひどい。

幾くしく。
これをもっと世間の興とする。

■あとがき■

はいっあとがきです～！

今回セシレイの月海本ということで以前からやりたかった
独自自記的な漫画を描いてみました。
思いつらかったらスママセン。
世ではたいがいは褒められも普及してきたので
これさもないけどうちもそれっぽい感じで
攻めては見たものの結局いつもの淫乱な女の子が
アヘアヘしちゃう漫画になってしまいましたわ。

うーん、
これからは娘の未来を守りたい！
さらに垂れ乳も守りたい。
そして
あなたの笑顔を守りたい…。

♪(´)シ タケシ……

あーっΣ(´Д`!!!) かつかーちゃん！

カラテカ・バリュー

20081229

COMIC MARKET 75

Special thanks

ゆま亮平

BBサコス

ぱにぽーにゃ

発行

KIKYAKUDOU

<http://opaidaisuki.muvc.net/>
karateka@king.interq.or.jp

印刷

PICO

http://www.pico-net.com/index_pico.htm

18歳未満の閲覧および購入は固く禁止します。
また、本人の許可なく複製、転載も固く禁止いたします



幾 久しく。

これをもって華燭の典とする。

ikuhisasaki

Presented by KIKYAKUDOU
FOR ADULTS ONLY